

(様式1)

令和元年度 目標達成計画

園所名 三木市立広野幼稚園

良いとこ自慢・・・自分の園所が自信をもって誇りに思えるような取組
ここを改善・・・主にこれまでの特定教育・保育施設評価の中で課題・改善点として挙げた内容の取組

<p>教育・保育目標 「生き生きと活動し、思いやりのある子どもに」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしい子（命あるものを大切にし、生き物をかわいがる子・友達と仲良くする子） ・元気な子（友達と元気いっぱい遊ぶ子・はっきりと話し、あいさつのできる子） ・がんばる子（自分のことが自分でできる子・最後までやりぬく子）
--

【目標達成計画】

項目	園の現状や取組、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	成果	評価
共通課題	・お散歩等園外での保育活動における安全対策について	・事前に職員で下見をし、危険箇所、安全度について共通理解し、把握する。 ・日頃から園児が交通ルールに興味を持つようにし、自分で自分の命を守る意識を持つようにする。	・お散歩マップやお散歩マニュアルを作成（危険箇所や気付いたことを追記していく。） ・親子交通教室を実施。 ・事前の話し合いを通して、危険箇所を把握する。（年長児）	・教師にとっても、園児にとってもわかりやすく見やすく、共通理解しやすくなった。 ・園外保育中の園児への注意の仕方が端的になり、意思疎通が図られやすい。全体の注意事項はマニュアルに示し、保護者への啓蒙もできた。	・子どもと一緒に散歩マップを作成することで、共通理解と安全に対する意識付けが行えた。今後も、話し合いながら、気づきを追記していける取り組みである。 ・お散歩マニュアルを作成することで、職員の共有理解を図り、注意事項などを、子どもや保護者に明確に伝えることにつながっている。
良いとこ自慢！	保育内容面	・いろいろな保育場面を捉え、年少と年長のペア活動を取り入れ、安心感や自信が持てるように保育内容を工夫している。 ・クラスだよりにこだわらず、ドキュメンテーションなども取り入れ、保育の様子や遊び経過、学びや成長を伝える。	・ペア活動（ふれあい遊び・リズム遊び）を日常的に取り入れる。 ・お店屋さんごっこや運動会ごっこでの子どもたちの発想や遊びの経過をドキュメンテーションとして発信。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」も一緒に記入し、学びや成長を保護者と共有する。	・お互いにとって自信や安心感につながった。特に年少児は早く園生活になじみ、自分の思いを存分に表出しながら遊ぶ楽しさを味わうことができた。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」からの個々やクラスとしての学びを、保護者と共通の話題として話すことができ、成長の喜びを共有することができた。	・教育目標に示されているように「生き生きと活動し、思いやりのある子に」をめざして、日々楽しく実践されている。 ・ペア活動が日常的に取り入れられており、年長児はふれあい遊びやリズム遊びなどの活動を通して、年少児の世話をする経験を積むことで自信を持って活動できている。
	管理運営面	・防草シートの活用やシルバー人材センターの方との連携を密にし、園庭や園周辺の環境整備を整えている。 ・仕事の分担や整理を明確に行い、定時退勤ができるようにしている。	・すべき箇所を明確にし効率よく環境整備ができるようにしよう。定期的に職員会議を行い、仕事内容が明確になるように話し合おう。それぞれの得意なことが生かせるようにしよう。	・園全体として取り組んだことで環境整備が整い、きれいになった。 ・得意分野を生かし職員会議や勤務分担の効率化が図られ、それぞれの職員の良さが生かされている。 ・子どもたちの意識として、自分たちの園をきれいにしよう大切にしてほしいという気持ちが育った。	・関係者みんなで協力し合い、環境整備を行っている。子どもたちが、きれいにするの気持ちよさ、みんなで協力することの楽しさ・感謝の気持ち等を感じられる機会になっている。 ・業務に関し、毎日の職員会議開催と園日誌への記載により、業務の分担・記録の整理がしっかり行われ、情報の共有・周知が図られている。職員が得意分野を活かしたり、補い合うことで業務の効率化が図られている。
ここを改善！	保育内容面	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」のうち、「社会生活とのかかわり」についての保育活動が少ない。	・子どもたちの興味関心を探りながら、園周辺の施設を活用し、色々な実体験をする機会を持つ。	・特に年長児が、自分たちのやってみたいことの実現に向けて、相談したり、調べたりすることができ、自分たちだけでできたという自信を持ち、より主体的に園生活を楽しむ姿が見られた。	・子どもたちの自尊感情を育むための「仕掛け」を上手くなされている。例えば、「転勤した先生に会いに行こう！」という高いモチベーションの元で、実際に皆で電車に乗って、保育所に訪ねていくために、子どもたちがパソコンで先行や運賃を調べたり、安全にいくために何に気をつけたら良いのかを考えたり等々主体的な学びを生み出すことができています。
	管理運営面	・職員数が昨年度より一人減となったため、緊急時に動ける職員が少なく、危機管理に不安がある。	・色々な場面を想定して、研修や訓練を行い、対応の仕方を共有し、実践できるようにしよう。	・合同の事前研修など、小学校との連携がより深まる機会となった。 ・いろいろなシュミレーションをしながら、回数を重ねていくことが大切であるとわかった。	・危機管理に関し、小学校との合同訓練・園独自の訓練を実施するとともに、小学校での事前研修にも参加して危機管理に向けて実践的に取り組んでいる。今後も、様々なシュミレーションによる実地訓練を実施することが予定されている。